

プロロジス、2040年までにネットゼロ達成を宣言 ～2021-2022年 ESG レポートも発行～

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(NYSE:PLD、日本本社:東京都千代田区丸の内)は、2040年までにバリューチェーン全体で温室効果ガス排出のネットゼロ達成を宣言しました。また、2021-2022年版のESGレポートを公開しました。

プロロジスは、長年に渡ってサステナビリティに関する取り組みを続けており、ネットゼロの目標もその一環です。カスタマーのサステナビリティに関する目標達成のサポートを含めて、事業運営における温室効果ガス削減のための革新的な方法を模索し続けています。

プロロジスは、スコープ1・スコープ2については、2019年からすでにカーボンニュートラルを達成しています。2040年の目標はスコープ1・2・3を対象とし、以下の中間目標を含みます。

- 2025年までに、1GWの太陽光発電キャパシティ(蓄電分を含む)
- 2025年までに、建築・開発をカーボンニュートラルに
- 2030年までに、事業運営においてネットゼロに

プロロジスは、目標設定の妥当性検証のためにSBTi*に対して書類提出済みです。また、サステナブルな建築資材への革新を含めて、業界のバリューチェーン全体での温室効果ガス削減推進のため、外部団体とも連携してまいります。

■ 新たなエネルギー投資によるネットゼロ推進

プロロジスは、カスタマーの環境目標達成のためにも緊密に連携しています。運営中物流施設においてEV(電気自動車)充電や太陽光発電を含む、付加価値のあるエネルギー関連事業を展開しており、2022年4月時点で200のEV充電ステーション、325MWの屋上太陽光発電を運営中です。世界で約9,300万㎡におよぶ運営中物流施設のポートフォリオを活用し、カスタマーとともに、エネルギーや気候変動の先進的なソリューションを開発・導入しています。このような取り組みによって、パリ協定で設定された目標を10年先取りして達成できる見通しです。

■ ESGレポート概要：クリーンな未来に向けて業界をリード

2021-2022年のESGレポートでは、ESGの目標に対する進捗を報告しています。主な点は以下の通りです。

- 2018年に、SBTiが排出削減目標を認定した初の物流REIT。
- 2018-2021年の間に16のグリーンボンドを発行し、クレジットライン(与信枠)もサステナビリティの指標に基づいている。
- 2022年の4月30日までに、325MWの太陽光発電キャパシティを達成。
- ポートフォリオの57%でLED照明を導入完了。
- 従業員のエンゲージメントスコアが88%を達成(金融サービスセクター平均比で12ポイント上方)。

- ボーナス支給要件の中で、ESG の達成度合いの要件を単独化し、現在は他のコアビジネスとほぼ同程度の 10%に相当。
- 2016 年以來、物流 DX を加速させるスタートアップ企業に投資する”Prologis Ventures”を通して、40 企業に対して 1 億 5,000 万ドル(約 199 億 5,000 万円)を投資。ESG やサステナビリティに焦点を当てた革新的事業もあり、食品配送におけるフードロスの削減や、配送における温室効果ガス排出量の計算ソフトウェア、職場の安全性や生産性向上などへの投資を行った。

2021-2022 年 ESG レポート全文および要約(英語): <https://prolo.gs/esg2022>

*SBTi は、企業における温室効果ガス排出削減目標について、科学的知見と整合した削減目標を設定・推進することを目的としたイニシアティブであり、パリ協定に沿った目標策定のグローバル・スタンダードとなっている。WWF(世界自然保護基金)や CDP(旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト、グローバルな環境課題に取り組む NGO)、WRI(世界資源研究所)、UNGC(国連グローバル・コンパクト)によって、目標を設定する企業の認定が行われている。

※ 本資料は 2022 年 6 月 22 日(現地時間)に世界本社で発表したリリースの抄訳です。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
https://f.msgs.jp/webapp/form/11859_dor_73/index.do